

市民・バス利用者アンケート調査結果の概要

地域公共交通計画策定に向けた資料とするため、市民及びバス利用者を対象に、以下のアンケート調査を実施しました。

表 ニーズ調査の実施概要

市民 アンケート調査	(実施期間) 令和 6 (2024) 年 10 月 (調査方法) 郵送による調査票の配布/郵送・WEB の併用による回収 (調査対象) 15 歳以上の市民 2,500 人 (有効回答数) 1,203 件 (うち、ひとりで外出可能な人 1,156 件)
バス利用者 アンケート調査	(実施時期) 令和 6 (2024) 年 9～10 月 (アンケート)、11 月 (車内聞き取り) (調査方法) [大竹・栗谷線バス]: 車内留置 (14 日間) / 郵送・WEB の併用による回収、 車内で聞き取り (2 日) [坂上線バス]: 車内留置 (14 日間) / 郵送・WEB の併用による回収、 車内で聞き取り (2 日) [こいこいバス]: 車内で調査票を配布 (3 日間) 及び車内留置 (11 日 間)、郵送・WEB の併用による回収 (有効回答数) [大竹・栗谷バス] 21 件、[坂上線バス] 52 件、 [こいこいバス] 245 件

結果概要を次より示します。

1. 市民の移動環境

(1) 移動環境の満足度

暮らしにおける移動環境に対しては、「満足」している人が約 29%で最も多く、「やや満足」と合わせると『満足』が約 57%となっています。一方、『不満』（「やや不満」と「不満」の合計）は約 15%です。

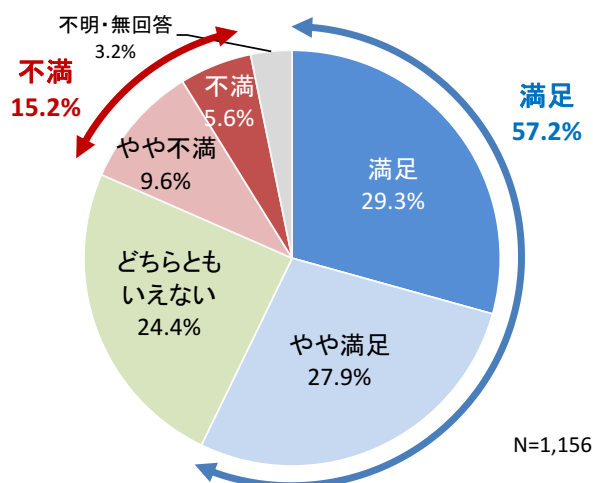


図 移動環境の満足度(市民アンケート)

※アンケート調査結果における構成比は、四捨五入の関係で合計が 100%にならない場合があります（以降も同様）

移動環境の満足度を年齢別にみると、全ての年齢で『満足』が『不満』を上回っています。『満足』の割合は80歳以上が最も低くなっており、『不満』の割合も80歳以上が最も高くなっています。

また、市内でよく使う移動手段別にみると、自動車を利用できない方が、満足度が低いことがわかります。

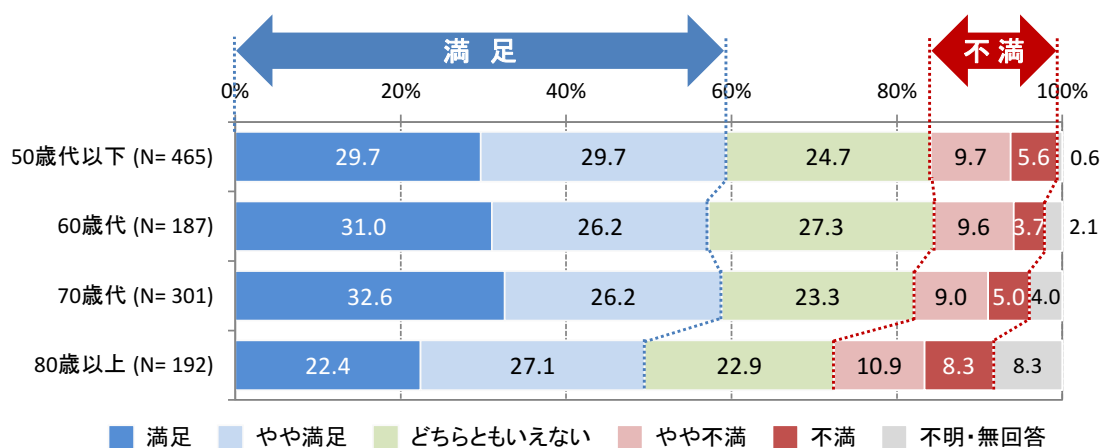
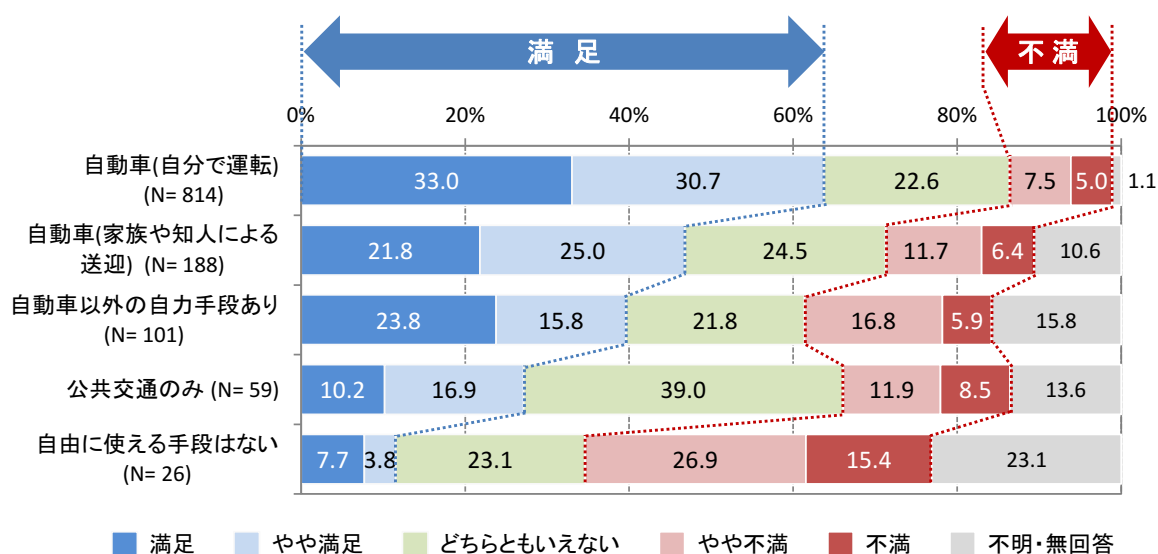


図 年齢別にみる移動環境の満足度(市民アンケート)



※「市内でよく使う移動手段」は複数回答の設問であるため、以下の考え方で集計した。

- ①「自動車（自分で運転）」は、該当する回答者の集計結果
 - ②「自動車（家族や知人による送迎）」は、①の回答者を除いた回答者の集計
 - ③「自動車以外の自力手段あり」は、①②の回答者を除いた回答者の集計（バイク・原付、自転車、電動カート・シニアカー利用者）
 - ④「公共交通のみ」は、①②③の回答者を除いた回答者の集計
 - ⑤「自由に使える手段はない」は、該当する回答者の集計結果（①②③④の回答者とは重複しないため）
- なお、手段の回答が「その他」「不明・無回答」は除いている。

図 市内でよく使う移動手段別にみる移動環境の満足度(市民アンケート)

居住地域別にみると、全ての地域で『満足』が『不満』を上回っており、中でも『満足』の割合が最も高いのは大竹地域(東) (約 66%) です。一方、『不満』の割合が最も高いのは小瀬川沿岸地域 (約 24%) となっています。

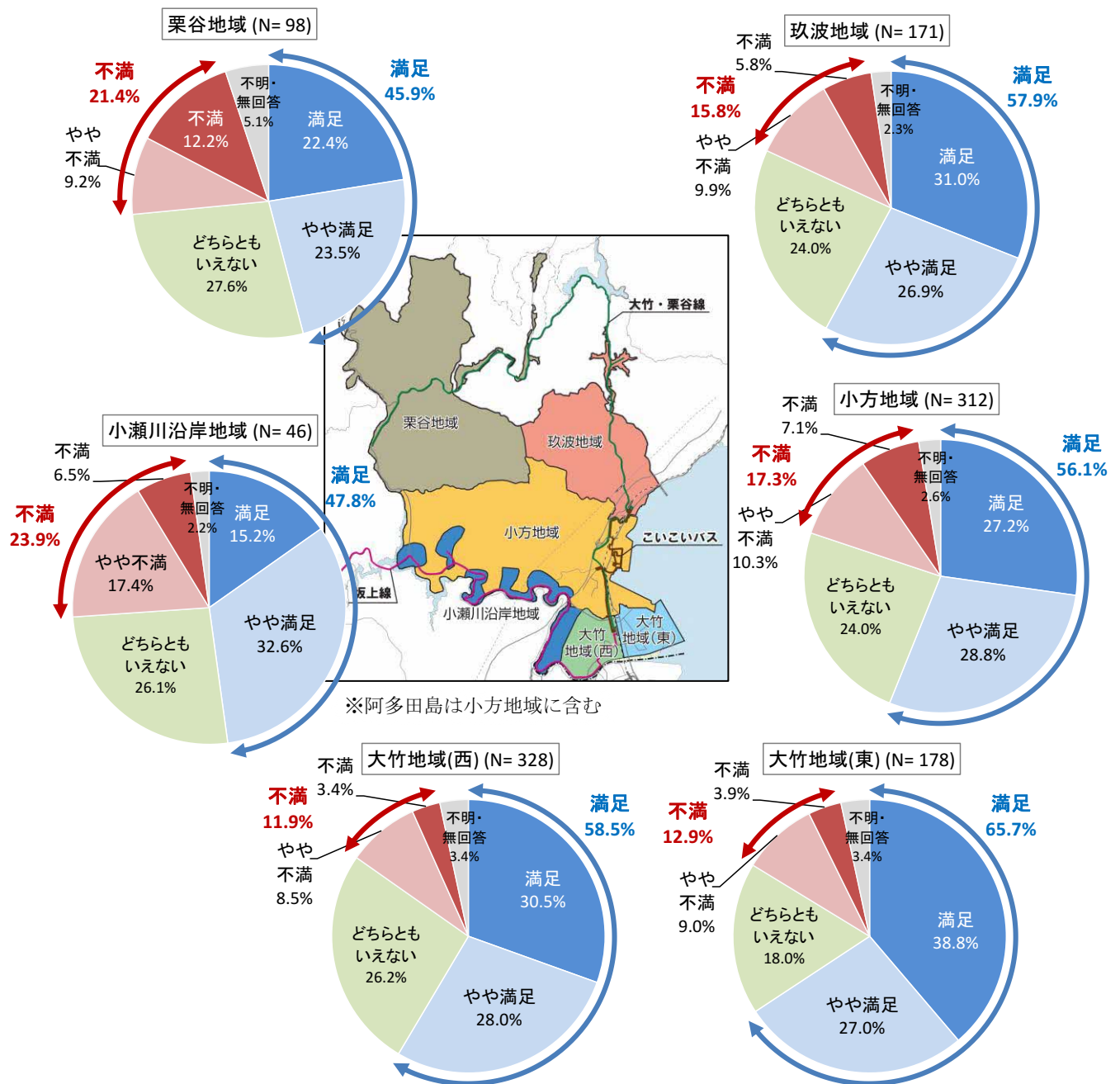


図 地域別にみる移動環境の満足度(市民アンケート)

(2) 主な不満の理由

交通環境に不満を感じる理由としては、「便数が少ない」、「バス停が近くにない」、「鉄道駅が遠い」等の公共交通の不便さや、自動車で送迎される方が「運転者に気を使う」などの意見が多くあがっています。

2. 市民の生活移動

(1) 市内での移動手段

居住地域別の市内でよく使う移動手段では、全ての地域で「自家用車(自分で運転)」の回答が最も多く、次いで、大竹地域(西)と大竹地域(東)では「自転車」、小瀬川沿岸地域では「坂上線バス」、他の地域では「自家用車(送迎)」が多くなっています(小方地域では「こいこいバス」も同率)。

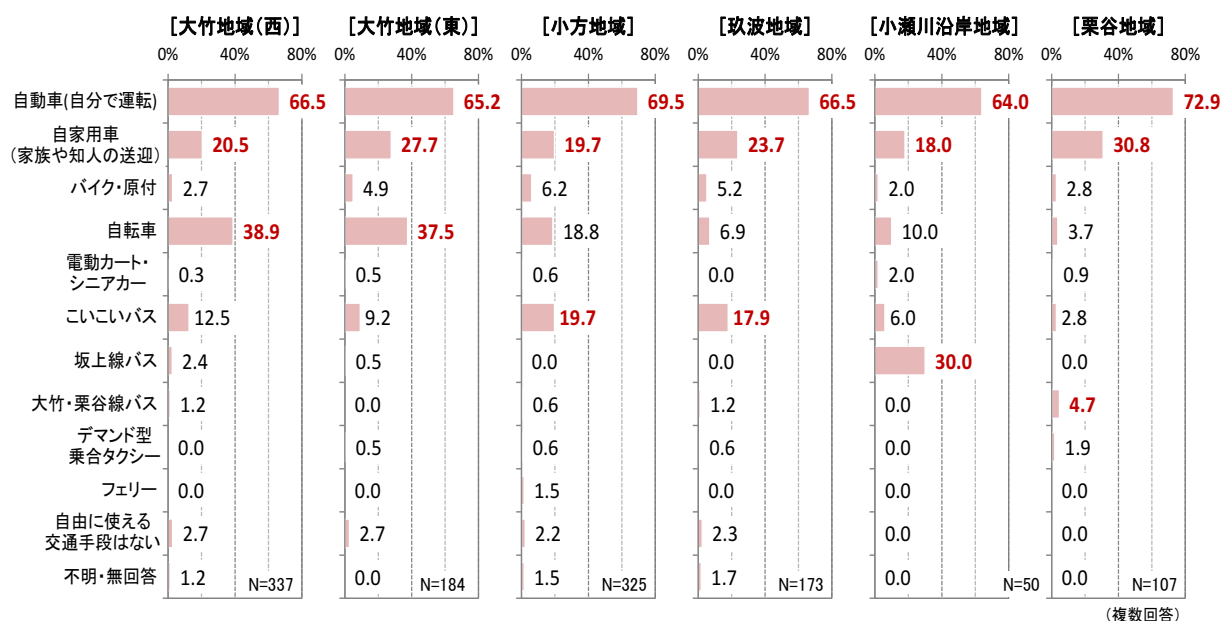


図 地域別にみる大竹市内でよく使う移動手段(市民アンケート)

市内でよく使う移動手段は、「自家用車(自分で運転)」の回答が最も多いですが、年齢が上がるにつれ、その割合は低くなっており、80歳以上では「自家用車(送迎)」、「こいこいバス」の利用が増えています。

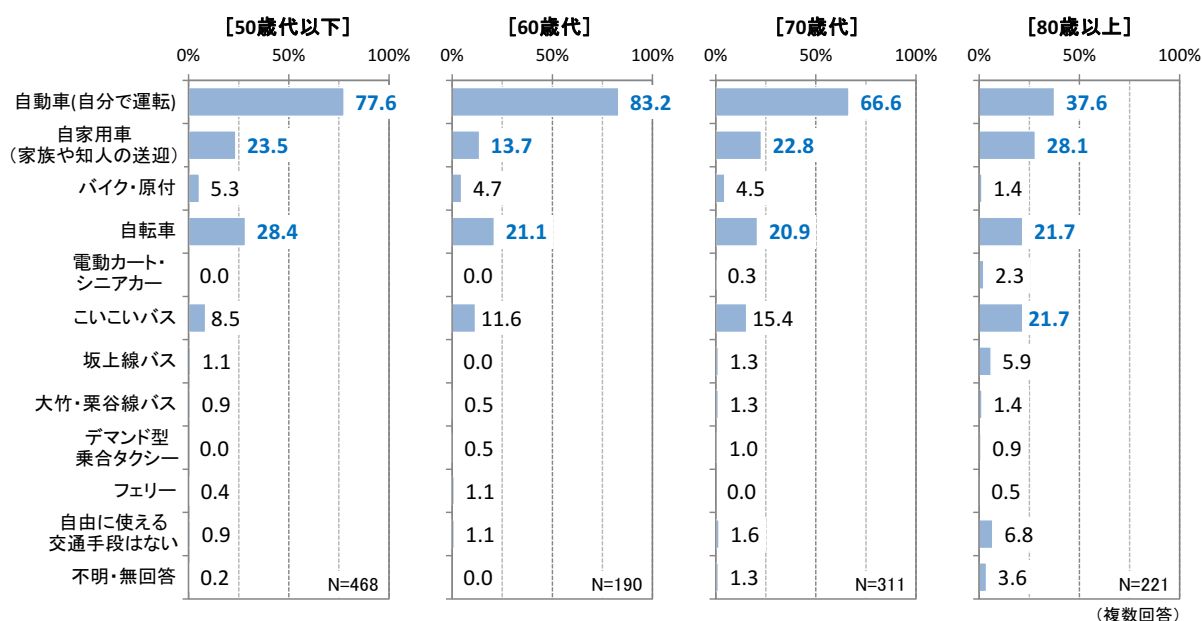


図 年齢別にみる大竹市内でよく使う移動手段(市民アンケート)

(2) 買い物・通院の移動で困ることの有無

買い物や通院の移動で「困ることはない」とする市民は7割台を占め、逆に約2割が『困る』（「困ることが多い」と「たまに困る」の合計）と回答しています。

居住地域別にみると、小瀬川沿岸地域で『困る』市民の割合が高くなっています。また年齢別では、概ね高齢になるほど『困る』割合が高くなっています。

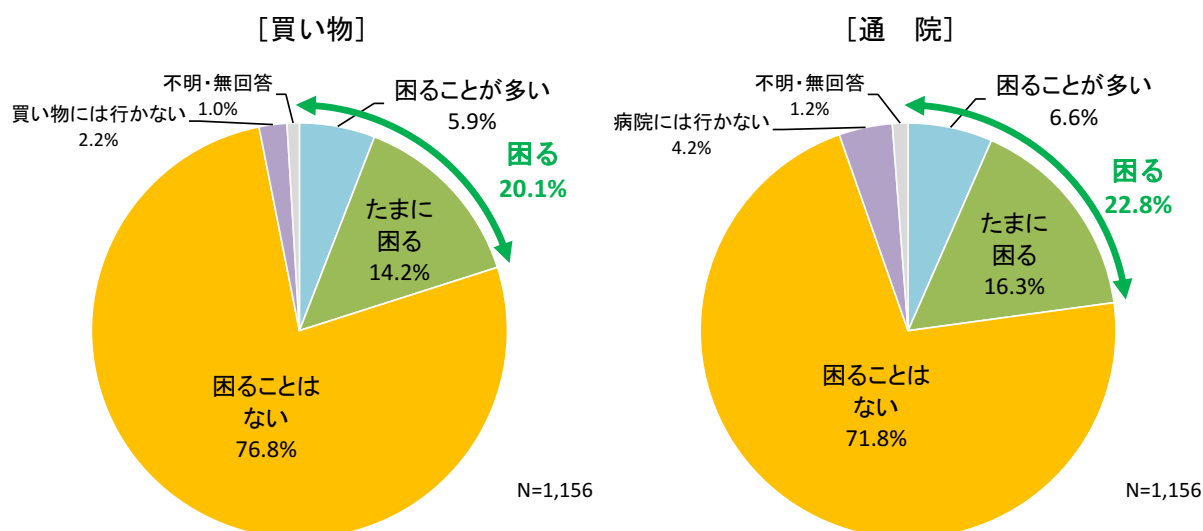


図 買い物や通院の移動手段で困ることの有無(市民アンケート)

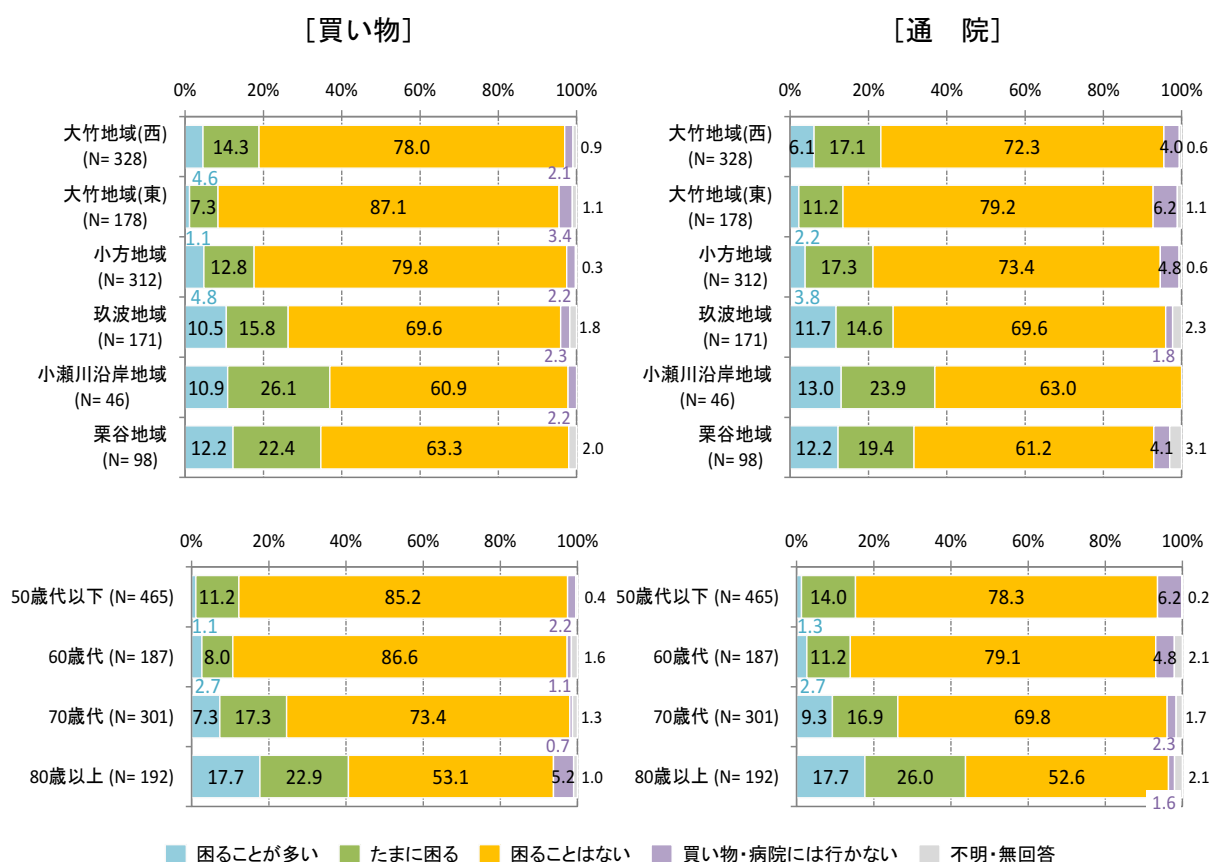


図 地域別・年齢別にみる買い物や通院の移動手段で困ることの有無(市民アンケート)

(3) 数年後の暮らしの移動環境への不安

数年後の暮らしの移動環境に『不安』（「やや不安」と「とても不安」の合計）を感じている割合が約 52%となっています。居住地域別にみると、玖波地域、小瀬川沿岸地域、栗谷地域では『不安』を感じる人が6割以上となっています。また年齢別では、高齢になるほど『不安』を感じる割合が高くなっています。

不安を感じる具体的な理由では、自分が車・バイクが利用できなくなった場合や家族等による送迎が無理になった場合の移動環境への不安、買い物や通院への不安（近くにない含む）などの意見が多くあがっています。

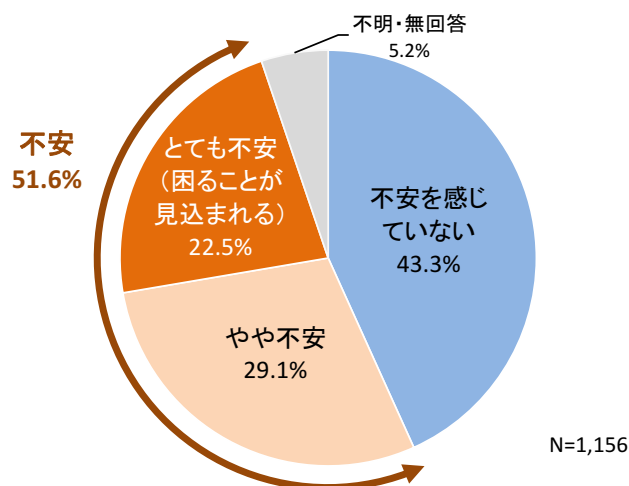


図 数年後の暮らしの移動環境への不安(市民アンケート)

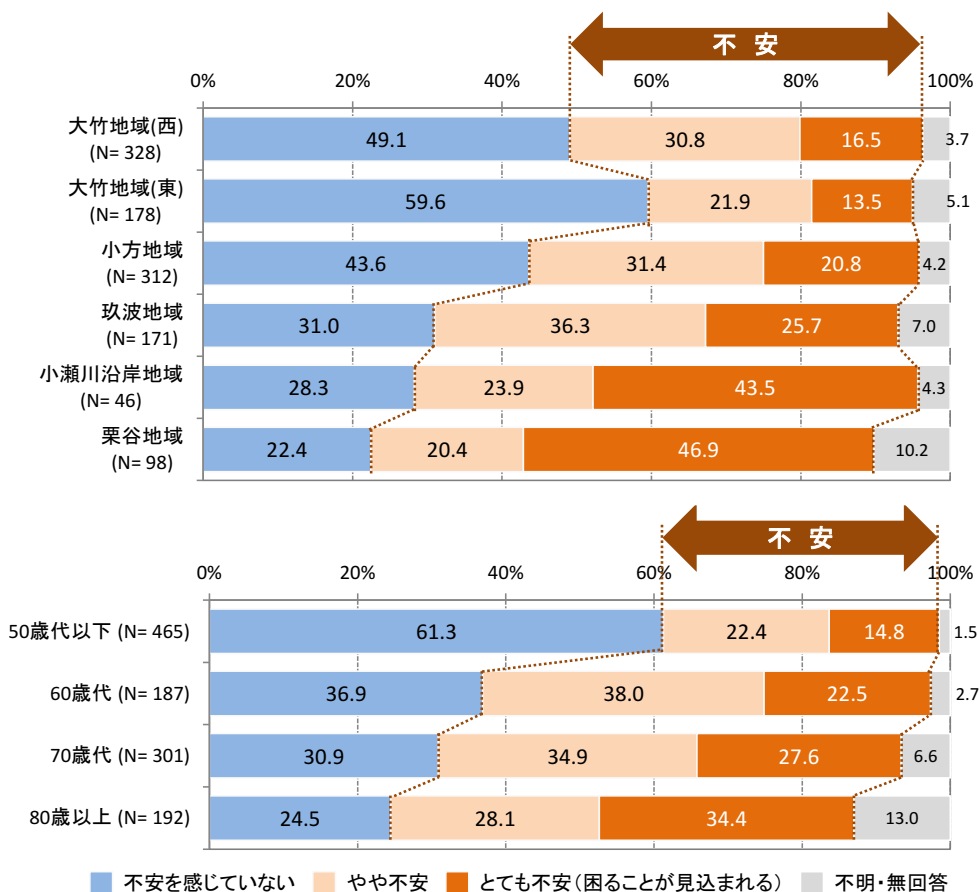


図 地域別・年齢別にみる数年後の暮らしの移動環境への不安(市民アンケート)

3. 大竹・栗谷線バス、坂上線バスの利用実態と満足度

(1) 利用者の性別・年齢と利用目的

① 大竹・栗谷線バス

大竹・栗谷線バスの利用者は、「女性」の割合が約 76%を占め、年齢では 70 歳以上の割合が高いです。利用目的は、「買い物」と「通院・看護」が同率で最も多く、次いで「登山・山歩き」となっています。

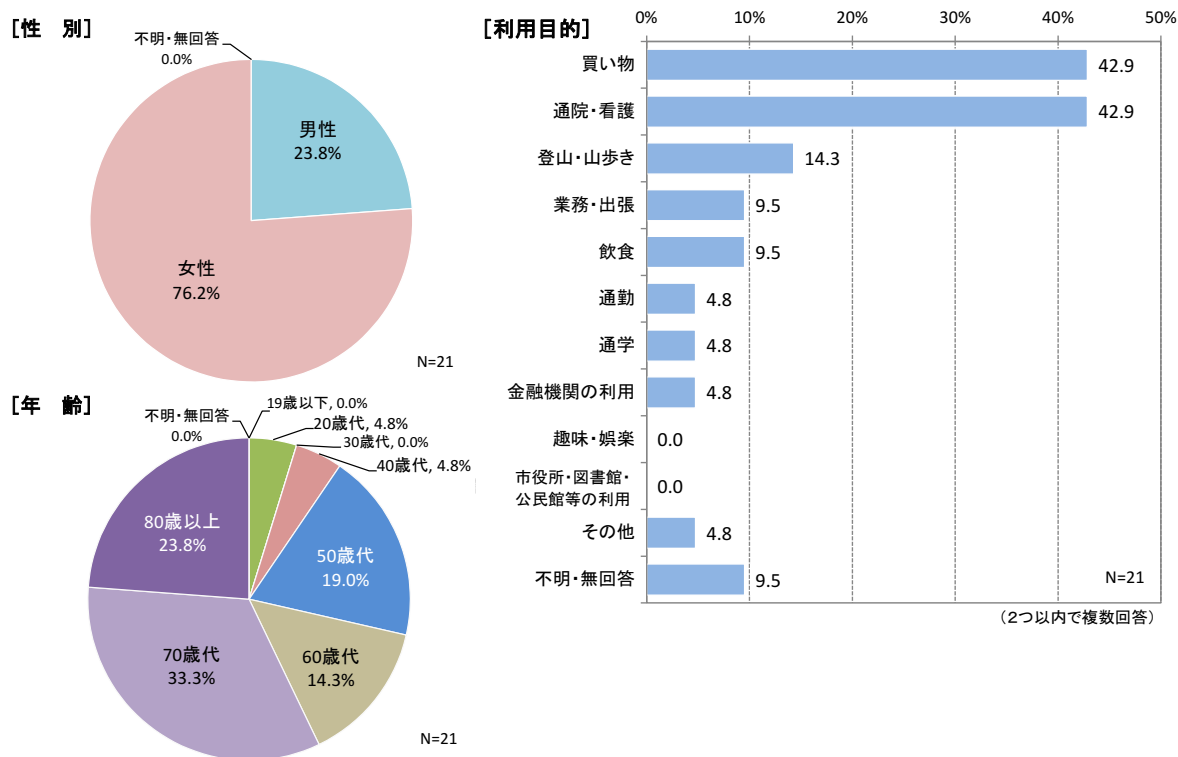


図 大竹・栗谷線利用者の性別・年齢と利用目的(利用者アンケート)

② 坂上線バス

坂上線バスの利用者は、「女性」の割合が約 73%を占め、年齢では 70 歳以上の割合が高いです。利用目的は、「買い物」が最も多く、以下「通院・看護」、「通勤」となっています。

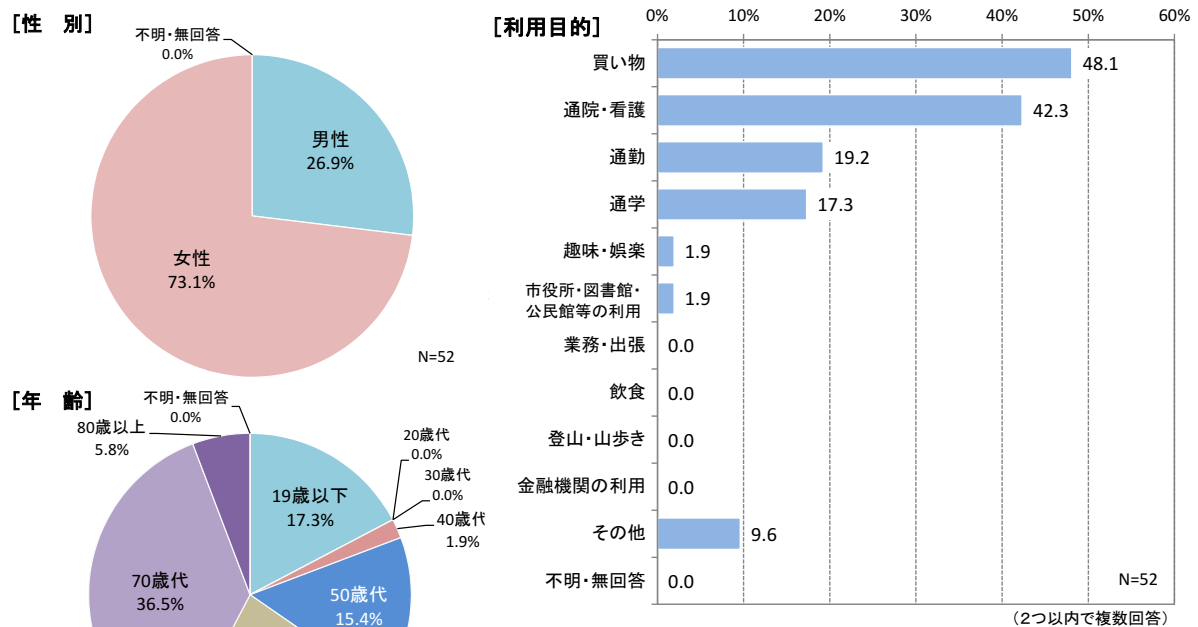


図 坂上線利用者の性別・年齢と利用目的(利用者アンケート)

(2) 利用者の満足度

満足度は、いずれのバスも『満足』が『不満』を上回っており、特に、坂上線バス利用者では『不満』と回答した人はいません。

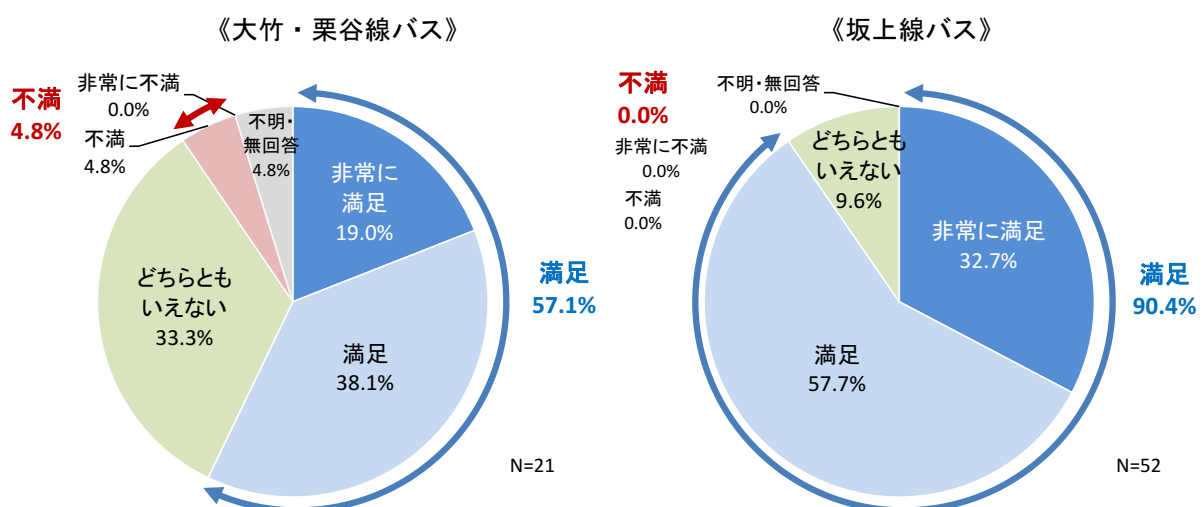


図 利用者の満足度(利用者アンケート調査)

4. こいこいバスの利用実態と満足度

(1) 利用者の性別・年齢と利用目的

こいこいバスの利用者は、「女性」の割合が約 77%を占め、年齢では 70 歳以上の割合が高いです。利用目的は、「買い物」が最も多く、以下「通院・看護」、「通勤」となっています。

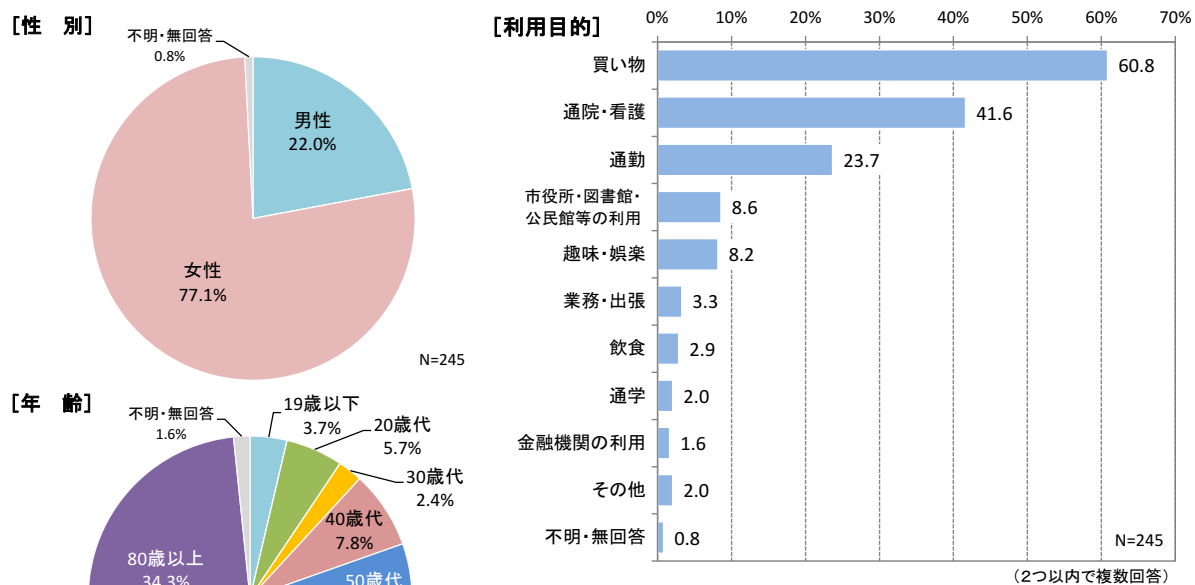


図 こいこいバス利用者の性別・年齢と利用目的(利用者アンケート)

(2) 利用者の満足度

満足度は、『満足』が『不満』を上回っており、満足度は高いといえます。

満足度を項目別にみると、『満足』の割合が最も高いのは《乗務員の対応》、次いで《到着時間の正確さ》となっています。一方、《運行便数》については『不満』の割合が約25%となっています。

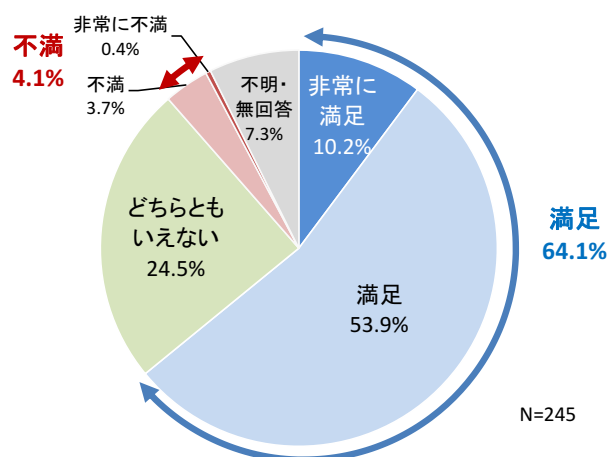


図 こいこいバス利用者の満足度(利用者アンケート調査)

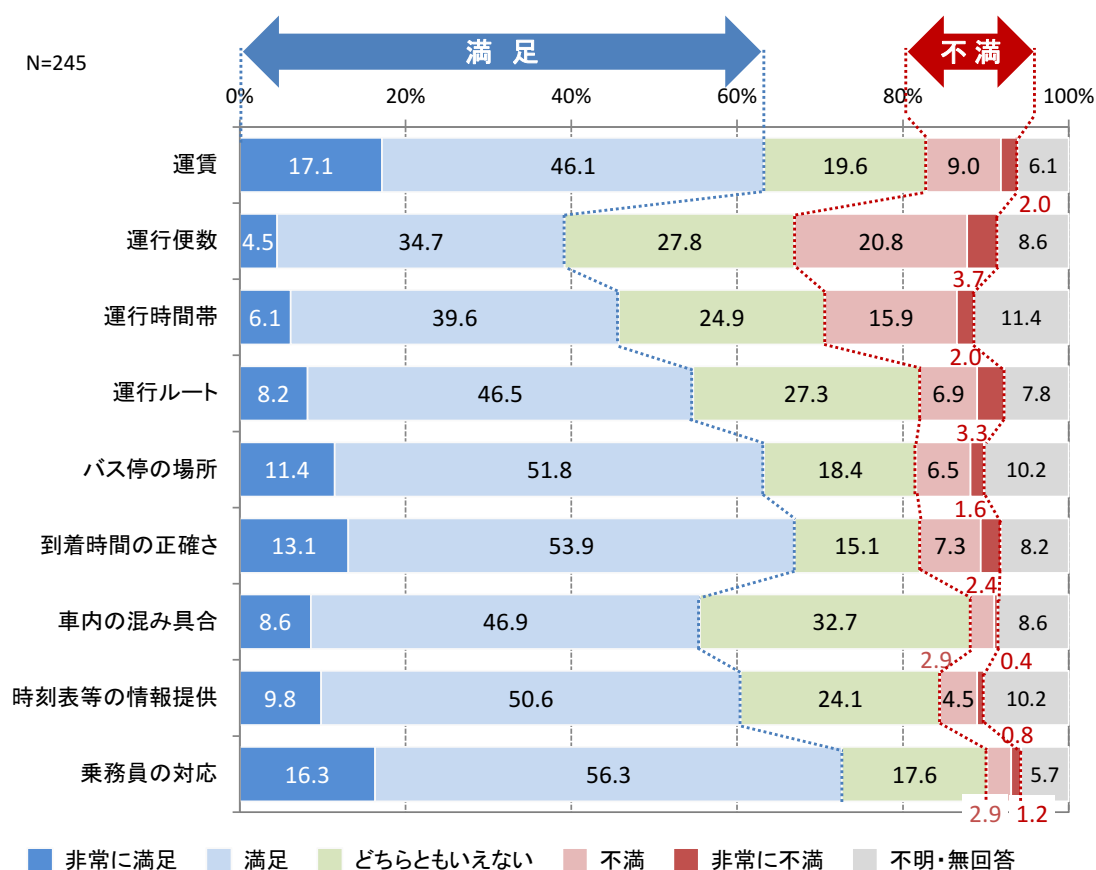


図 こいこいバス利用者の項目別の満足度(利用者アンケート調査)

5. バス利用者の今後の利用意向

今後の利用意向は、全てのバスで「つづけて利用する」の割合が大半を占めています。また、割合は低いですが「利用が減る」「利用しなくなる」とする利用者もいます。その理由としては、バス停まで歩くのが難しい、などの意見があがっています。

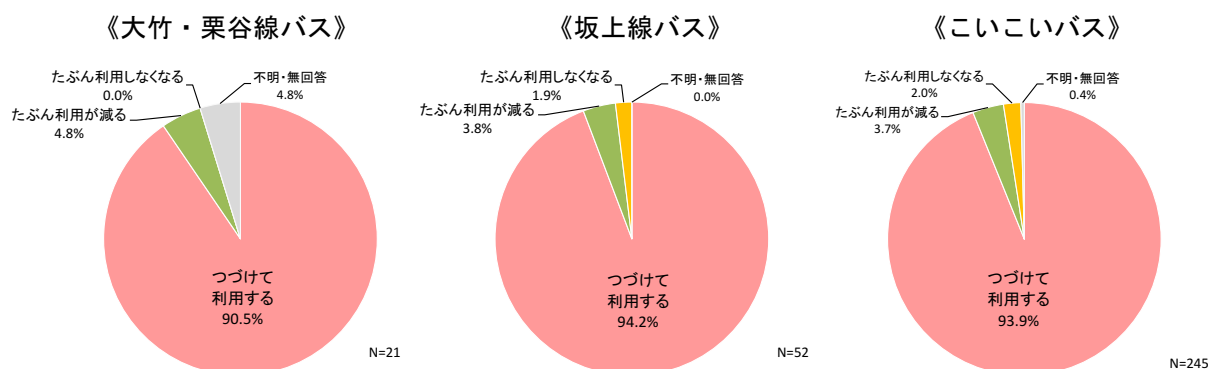
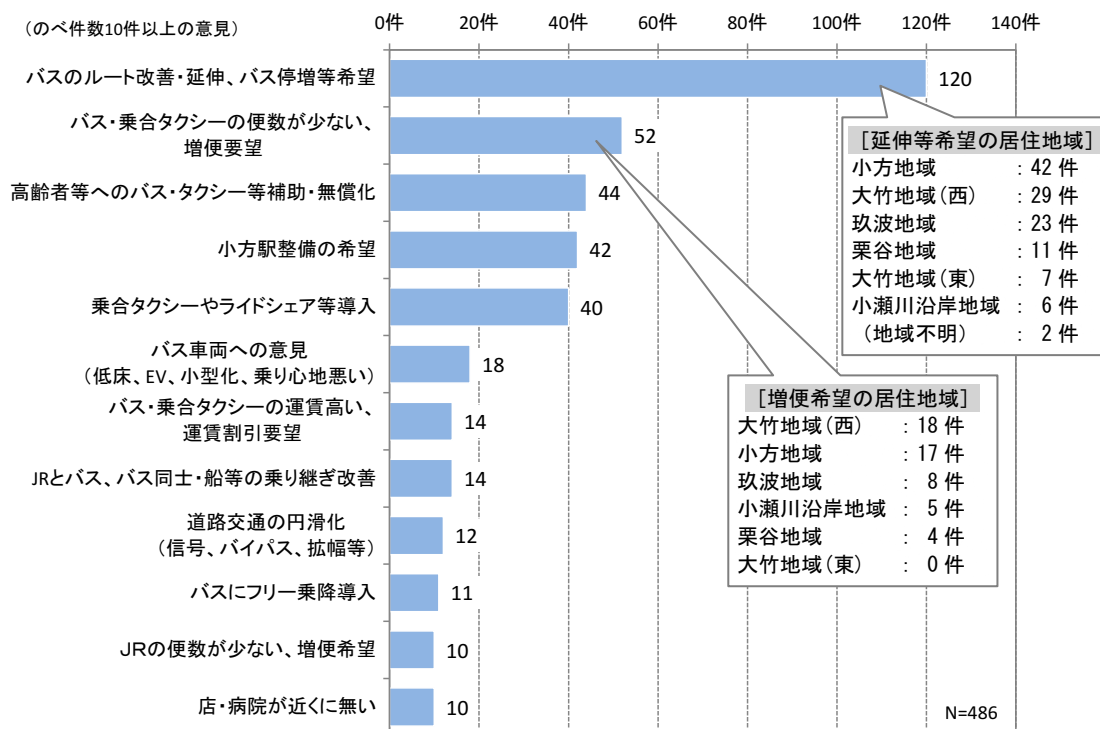


図 バス利用者の今後の利用意向(利用者アンケート)

6. 地域公共交通に係る意見

市民アンケート調査による地域公共交通に係る意見・改善のアイデア(自由意見)では、自宅付近などへのバスルート延伸やバス停の増設を求める内容が最も多くなっています。この内容の回答者の居住地は、小方地域が最も多いです。

その他、バスや乗合タクシーの増便要望、高齢者等への運賃補助・無償化、小方駅の整備要望、乗合タクシーやライドシェア等の導入要望などの意見があげられています。



* 市民アンケート調査の自由意見を項目別にカウントしたうえで、多い意見をグラフ化

図 地域公共交通への主な意見・改善アイデアなど(市民アンケート)